

農業総合研究センター かわら版

第37号 平成20年2月29日 発行

山形県農業総合研究センター 研究企画部

〒990-2372 山形市みのりが丘6060-27

電話：023-647-3510

e-mail：nokense@pref.yamagata.jp

研究企画部では、編集に関する皆様からのご意見
ご要望をお待ちしております。

研究情報セミナー「山菜コース」を開催！

(最上総合支庁農業技術普及課産地研究室)

2月5日、最上総合支庁産地研究室において、研究情報セミナー「山菜コース」が開催されました。

同セミナーは、これまで開発した技術の生産現場への早期移転や今後より現場に即した研究開発を行うため、生産者や関係者を対象に開催したもので、当日は、最上管内を中心に県内各地から約70名の参加者がありました。

セミナーでは、最上総合支庁産地研究室における近年の成果と現在の取り組み内容、置賜総合支庁産地研究室から“うこぎ”についての取り組み事例が紹介されました。また、生産者や農業技術普及課等から、病虫害対策や現在の系統の問題点など現場の課題や研究機関に対する要望が提起され、今後の研究開発の方向性についても話し合いが行われました。

同産地研究室では、現場感やスピード感を持った研究開発に当たるため、今後も同様のセミナーを“山ぶどう”“いちご”でも開催する予定です。



第61回北日本病虫害研究発表会が盛大に開催される

(農業環境研究部 環境技術開発科)

2月7日、8日の2日間、「第61回北日本病虫害研究発表会」が山形市（遊学館）を会場に開催されました。講演は口頭発表が58課題、ポスター発表が43課題と合わせて101課題が発表され、11都道府県から集まった250名を超える参加者によって盛大な発表会となりました。発表内容は農作物に対する病虫害の防除や生態、新技術の開発など多岐にわたり、活発な意見交換が行われました。

なかでも生物農薬や害虫の発生消長を考慮した防除法の開発等、環境保全型農業について

の講演が多くみられました。花き類のウイルス病や新病害については分子学的手法を用いた分類が多く見られ、今後の病原の早期発見・同定が期待されます。6日に行われた特別講演「タバココナジラミのバイオタイプと媒介ウイルス病をめぐる諸問題」(本多健一郎氏：野菜茶業研究所)では2008年2月現在、37都府県で発生が確認された新たなバイオタイプの生態、ウイルスの媒介能力、防除対策等について講演があり、薬剤抵抗性の発達、分布拡大など、今後の課題について情報提供がありました。



山形県オリジナル新品種小輪タイプのトルコぎきょう 「山園E1号」

農業生産技術試験場 野菜花き研究科

山形県が育成したトルコぎきょう「山園 E1 号」について紹介します。

今までにない新しいタイプのトルコぎきょうの育成を目標に、平成 9 年から庄内産地研究室で、平成 16 年からは農業生産技術試験場に場所を移し、交配・選抜を行ってきました。

トルコぎきょうの野生種の血を引き継いだこの「山園 E1 号」は、白で小輪の可憐な花を持ち、枝が多く、ボリューム感があります。

今年の栽培試験では県内各地で生産性が高く、品質の良いものが収穫できました。また山形や東京市場への求評調査を行ったところ、枝のつき方のバランスや花持ちの良さが非常に高い評価を得ております。

トルコぎきょうは山形県の花きのなかでも近年急速に栽培面積、産出額が伸びてきている品目です。

「山園 E1 号」の現場デビューを目指して、現在、種子生産等について検討中です。

